

施設名	静岡市 船越生涯学習交流館			所在地	静岡市清水区船越三丁目12番74号	
				電話番号	054-351-3121	
所管部署	静岡市 生涯学習推進課	HP	https://www.sgg-shimizuku-shizuoka.jp/		SNS	https://x.com/funakoshisgk

○施設外観・事業風景



○施設概要

施設の沿革・年表				施設の運営で大切にしている考えなど（PRポイント等を含む）			
平成3年6月	清水市船越公民館			船越地区は、清水区南西部の有度丘陵縁辺部に位置し、比較的 naturally 恵まれた郊外住宅地である。新興住宅地で世帯の伸びと共に子育て世帯の多い地域である。また、高齢者も多い地区であり、隣接する市老人福祉センターの利用と共に当館を利用する方も多く、利用者の年代は比較的高めである。若者世代の利用を促進するため、地区自治会、子ども会の連携や小学生など子供対象の行事を増やすことにより、子育て世代の利用者増加を図るべく、講座の企画に工夫をするよう心掛けている。			
平成15年	静岡市船越公民館（静岡市と清水市の合併）						
平成20年	静岡市船越生涯学習交流館 （教育委員会から市長部局へ移管）						
令和4年	建物老朽化により新交流館への建替え着手 （仮設事務所にて学習活動の業務継続）						
令和6年4月	新館完成・開館（貸館業務再開）						
市町人口		668570人		施設対象人口		11437人	
建物設置年月日		平成3年6月2日		開館日数 （前年度実績）		315日	
運営主体		<input type="checkbox"/> 市町教育委員会 <input type="checkbox"/> 市町首長部局		<input checked="" type="checkbox"/> 指定管理者（清水区生涯学習交流館運営協議会） <input type="checkbox"/> その他（ ）			
職員数		<input type="checkbox"/> 専任 1人 <input type="checkbox"/> 兼任 0人		<input type="checkbox"/> 非常勤 5人 <input type="checkbox"/> ボランティア協力者 0人		合計	6人
講座等開催数 （前年度実績）		<input type="checkbox"/> 学級・講座 84回 <input type="checkbox"/> 講演会・展示会等 0回		<input type="checkbox"/> その他 0回		合計	84回
来館者数 （前年度実績）		<input type="checkbox"/> 学級・講座 3309人 <input type="checkbox"/> 講演会・展示会等 0人		<input type="checkbox"/> 貸館・サークル活動 15147人 <input type="checkbox"/> その他 0人		合計	18456人

○事業等の実施状況（『特色ある活動』であげた事業以外で2つ）

区分	事業名	開催回数	延参加者数	区分	事業名	開催回数	延参加者数
<input checked="" type="checkbox"/> 主催 <input type="checkbox"/> 共催	HSP「人一倍繊細な人」	1回	12人	<input checked="" type="checkbox"/> 主催 <input type="checkbox"/> 共催	こんちゅうクンの昆虫「体験」教室	1回	50人
事業概要（共催先も記載）				事業概要（共催先も記載）			
視覚や聴覚などの感覚が敏感で刺激を受けやすいHSPの特性を学び、治療することのできない、生きづらさを感じるHSPとの付き合い方を習得する。				講師である「こんちゅうクン」と五感を活用して楽しく昆虫とのふれあいを体験する。また、自然体験が減少している子ども達に、身近な自然や環境について考えるきっかけ作りをする。			



施設名**静岡市 船越生涯学習交流館**

○特色ある事業

1. 事業名

交流館ボランティアはじめてみませんか？

2. 取組を進めた要因・背景、地域課題、住民ニーズなど

旧館の時から交流館の活動をお手伝いしてくださる方々の存在はあった。しかし、新館の建設が行われた2年間は仮設事務所での業務であったため、ボランティア活動が中断してしまった。新館での業務再開に向けて、地域の方々との連携を深め、より愛着のわく交流館、より良い交流館とするためボランティアを募り、あらためて地域と一緒に成長していける交流館を目指し、当講座を企画実施することとした。

3. 取組内容（力を入れている活動、特徴的な活動、地域課題解決の活動、運営の工夫など）

地域と連携して、より良い交流館の運営を目指すため、ボランティアの育成やその活動の計画を行う。(全3回)

- ①新館の見学を行い、社会福祉協議会職員からボランティアについて講義を聞く。
- ②館長から交流館の様子を聞き、どんな活動ができるか皆で話し合った。
- ③考えたボランティア活動を実体験し、今後の活動について考える時間を持った。

4. 参加対象、参加者数（前年度実績）

参加対象	どなたでも10人	参加者数	15人
------	----------	------	-----

5. 取組による成果や効果

定員を超える応募があり活動に対する意識の高さを感じた。社協職員も全体講義での基礎知識の講義やアドバイス、その後の定期的な活動にも参加しフォローしてくれた。参加者も個々に活動を考えるなど意識の向上や参加者同士の繋がりも強くなった。活動を知った方が新たに参加してくれるなど、活動が広がっていく手ごたえを感じた。

6. 取組の検証・改善を行う仕組み・方法

講座終了後1年以上が経過したが、10人前後の方が月1回の定期活動に快く参加している。社協職員も長い時間フォローしてくれ活動の定着の要因となった。参加者の自主的な意識や考えて継続できると感じており、一緒に進んでく雰囲気を保っていく事が大切であると感じている。

**7. 今後の目標・展開、次の仕掛け・ビジョン**

令和6年度の講座に参加してくれた方が活動の主要メンバーであるが、引き続き来館者等に向けボランティア活動の様子をお知らせしつつ、メンバー募集のアナウンスを続けている。今年度は交流館の大きなイベントである「交流館まつり」や「こどもまつり」にも昨年度以上に参加をお願いし、より多くの方々に交流館を知ってもらい、一緒に楽しく活動できる「仲間」を増やしていきたいと考えている。令和7年9月から来館者のお一人が新たにボランティアの仲間になってくれた。